

《原 著》

拡張型心筋症における経時的心筋脂肪酸代謝イメージング： その予後評価における有用性

成田 充啓* 栗原 正* 新藤 高士* 澤田 善博*
本田 稔**

要旨 [目的]拡張型心筋症 (DCM) の予後評価における¹²³I-BMIPP (PP) 心筋イメージング (I) の有用性を検討した。[方法]心不全で入院，その後症状が安定し，左心機能も著変のない DCM で，退院時 (1st) と 1 年後 (2nd) に PP-I を行った 23 例を対象とした。心筋への PP の集積 (%UT)，欠損の程度と広がり (DS) を計測した。1st では²⁰¹Tl (TI)-I も撮像，PP, TI の %UT より取り込み比 (UR) を求めた。[結果]2nd 後 18.2±9.5 か月追跡し，8 例で心事故 (A) が生じた。単変量解析で A に関連した因子は，初回検査での左室収縮終期径，UR，%UT-TI，段階的 DS，2nd での %UT-PP，DS，1st の DS とその後の変化より求めた Defect Index (DI) であった。Cox 多変量解析では A を予測する独立因子は DI (p = 0.0026) と年齢 (p = 0.0262) であった (DI 3 で A の相対危険率は DI 2 の 25.0 倍，95% 信頼区間 3.1–204.8)。[結論]DCM の予後評価には PP の心筋への取り込み状態を経時的に評価することが重要と考えられた。

(核医学 37: 303–310, 2000)